

第31期 中間事業報告書

2005年3月1日～2005年8月31日

VALUE BOOK

LAWSON

新企業理念

私たちは

“みんなと暮らすマチ”を
幸せにします。

私たちローソンは、創業30周年を機に、これからのローソンの使命を考え、新たに「企業理念」を制定しました。全ての企業活動を企業理念に基づくものと位置付け、企業理念の具現化に向けて全社一丸となって邁進してまいります。そのために、全社員が共有する価値基準を、自らの行動への問いかけという形で、新しい「行動指針」を定めました。

新行動指針

そこに、
みんなを思いやる気持ちは
ありますか。

【“みんなと暮らすマチ”を幸せにする】ための第一の行動の基本は、「思いやり」です。私たちローソンは、お客さまに、株主さまに、取引先さまに、FC加盟店オーナーさまに、クルー（パート・アルバイト）さまに、会社の仲間に、そして社会や地球環境に、どうすれば笑顔と楽しさが生まれるのか、共に喜びを分かち合えるのかを常に想像し、その人の立場で行動します。

そこに、
今までにない発想や行動への
チャレンジはありますか。

私たちローソンは、イノベーションリーダーとして「できない理由」を探すのではなく、「どうすればできるのか」という視点で、今までのやり方にとらわれずに創造し、行動を起こします。たとえそれが失敗であっても、その失敗からの学びが次の機会に生かせるように挑戦を続けます。

そこに、
何としても目標を達成する
こだわりはありますか。

たとえ「思いやり」や、今までにない発想や行動があっても、簡単にあきらめては、“みんなと暮らすマチ”を幸せにすることはできません。私たちローソンは、「こだわり」や「ねばり」、良い意味での「しつこさ」を持って目標達成に向けて行動を続けます。

次の30年に向けて始動した 「ローソンチャレンジ2007」。 これからもローソンは 業界のイノベーションリーダーであり続けます。

Q 当中間期の業績について説明してください。

A まず、当中間期の連結決算の概要を説明いたします。引き続き緩やかな景気回復が見られたものの、業種業態を超えた競争がより一層厳しくなる中で、加盟店の増加によるロイヤリティ収入や、子会社の株式会社ローソン・エイティエム・ネットワークスのATM手数料収入の増加などにより、当中間期の営業総収入は、前年同期比6.5%増の1,368億2千8百万円となりました。また、営業総利益の増加や、販売費及び一般管理費の増加を抑制したことなどにより、営業利益は前年同期比9.0%増の253億2千7百万円となりました。経常利益は、持分法適用関連会社の株式会社ローソン・シーエス・カードの収益の改善が進んだことなどにより、前年同期比11.2%増の250億3千8百万円となりました。これらの結果、中間純利益は前年同期比14.1%増の128億8千1百万円、1株当たり中間純利益は126円7銭となりました。

当期は、ローソン創業30周年の節目の年であり、また、中期経営計画の「ローソンチャレンジ2007」の初年度でもあります。新しい未来に向けて、良いスタートを切ることができたと思っています。

Q 新しい企業理念について教えてください。

A 多くの皆さまに支えられ、ローソンは今年、創業30周年の節目の年を迎えることができました。これを機に、これまでの30年を振り返るとともに、次の30年を見据え、従来の常識の枠にとらわれることなくコンビニエンス



代表取締役社長 新 浪 剛

ストアのあり方、ローソンのあり方をゼロベースに立ち返って考えていく必要があると考え、企業活動の根底にある企業理念を見直しました。

新しい企業理念は、「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」です。「私たち」とは、ローソンの業務に関わる加盟店オーナーさん、クルーさん、ローソンの従業員、つまりローソンファミリー全員を指します。「みんな」とは、お客さまのみならず、株主さま、取引先さま、店舗近隣の住民の皆さまなど、全ての利害関係者を含み、広義には地球環境なども含みます。また、「みんな」には「私たち」も含まれ、“みんなと暮らすマチ”の幸せに貢献することで、「私たち」も幸せになれるという考えです。

そして、全ての企業活動をこの企業理念に基づくものとし、企業理念の具現化に向け、行動指針も新たに制定しています。

「そこに、みんなを思いやる気持ちはありますか。」「そこに、今までにない発想や行動へのチャレンジはありますか。」「そこに、何としても目標を達成するこだわりはありますか。」「これら3つの行動指針を常に自分たちに問いかけながら業務に邁進することで、“みんなと暮らすマチ”を幸せにし、マチのほっとステーションを実現していきます。」

3カ年計画

「ローソンチャレンジ2007」 における戦略

「ローソンチャレンジ2007」は、2005年度から2007年度までの3カ年中期経営計画です。キーワードは、①イノベーション(改革)の推進、②CS(お客さま満足)・ES(従業員満足)の向上、③生産性の向上、④CSR(企業の社会的責任)の重視であり、この4つのポイントに徹底して取り組んでまいります。

戦略Ⅰ

品揃えの更なる改善

そのマチ、その店のお客さまを良く知り、売れ筋商品の販売機会ロスを低減し、お客さま満足の向上に努めます。

戦略Ⅱ

3つのフォーマットの展開

多様化するお客さまニーズにあわせ、ローソン、ナチュラルローソン、LAWSON STORE 100の3つのフォーマットを展開します。

Q 「ローソンチャレンジ2007」について教えてください。

A ローソンでは過去3年間の「ローソンチャレンジ2004」の中で、中長期にわたる安定成長の基盤を確立するために、負の資産の処理を進めるとともに、店舗運営力、商品開発力、店舗開発力の向上を図ってまいりました。

その結果として一定の成果を得られたことで、今年度より、次の中期経営計画である「ローソンチャレンジ2007」をスタートさせています。

そのキーワードは①イノベーション(改革)の推進、②CS(お客さま満足)・ES(従業員満足)の向上、③生産性の向上、④CSR(企業の社会的責任)の重視であり、以上の4つのポイントに徹底して取り組むことにより、EPS(1株当たり当期純利益)3年間の年平均10%成長、2007年度末のROE(株主資本当期純利益率)15%を目指します。

「ローソンチャレンジ2007」の第一の骨子は、「品揃えの更なる改善」であり、お客さまの求める商品が、いつも店舗にあるようにしていくことです。「ローソンチャレンジ2004」の営業戦略上最も大きかった成果は、加盟店オーナーさんとの信頼関係を構築できたことです。これにより、本部の施策や店舗指導アドバイスに対して、納得して取り組んでいただけようになりました。「ローソンチャレンジ2007」では、「CS(お客さま満足)向上」と、その結果としての「加盟店オーナーの収益の更なる拡

大」を図っていくために、Q(品揃え)・S(接客)・C(清掃)の向上を引き続き目指していきます。特に、ミステリーショッパー(店舗覆面調査)の実施によって明確になったQ(品揃え)の強化という課題に集中してまいります。具体的には、売れ筋商品が品切れになること、いわゆる機会ロスを低減するために、そのマチ、その店のお客さまのニーズに合ったその店独自の品揃えを行う「個店主義」の考えに基づいて、仮説発注とその検証を繰り返し、更なる発注精度の向上を目指します。

そして、第二の骨子は、お客さまの多様なニーズにあったフォーマットを展開していく「3つのフォーマットの展開」です。

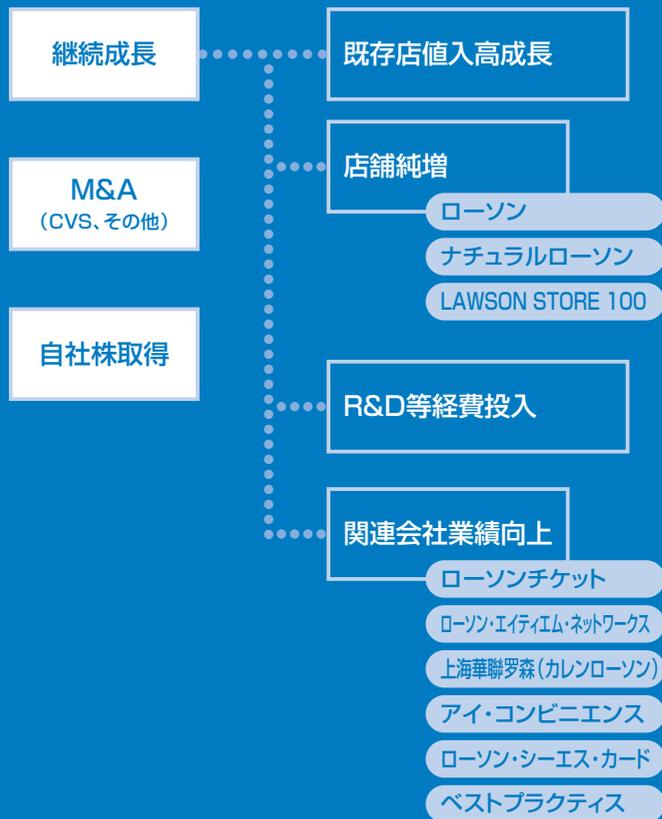
Q 新たに打ち出した3つのフォーマットについて教えてください。

A コンビニエンスストアが世の中に登場して30年が過ぎました。お客さまの支持を受け、私たちローソンは、ここまで成長してまいりましたが、現在、社会環境は大きく変わろうとしています。例えば、少子高齢化であり、働く女性の社会進出の拡大であり、それらによってお客さまニーズの多様化が進んでいます。従来型のCVSモデルでは対応できないお客さまニーズに、どのように対応していくかということが、大きな課題となります。

そこでローソンでは、「美と健康」をキーワードに快適なライフスタイルの実現をサポートする、女性を主なターゲットとした「ナチュラルローソン」や、生鮮商品やバリュー(お値打ち)価格の加工食品などを、主婦や50代以上のお客さまを中心に提供する「LAWSON STORE 100」という新フォーマットの展開を開始しました。利便性に優れた「ローソン」と合わせることで、あらゆるお客さまに対応できる3つのフォーマットを展開することが可能となり、出店余地の拡大による企業成長のポテンシャルが高まりました。



「ローソンチャレンジ2007」における成長のイメージ



EPS

年平均10%成長

2007年度までの3年間、1株当たり当期純利益(EPS)の年平均10%成長を目指します。

ROE

15%

2007年度末の株主資本当期純利益率(ROE)15%を目指します。

株主還元 配当重視

2005年度は、欧米並みの配当性向40%を目処に、前期比20円増配の1株につき90円の年間配当金を予定しています。

Q 今後の株主還元策について教えてください。

A 株主の皆さまに対する利益還元については、経営の最重要政策の一つと捉え、配当金をもって実施することを基本方針としています。これは、今後の成長に必要な内部留保を確保した上で、全ての株主の皆さまに株式数に応じて利益還元を実施するという株主平等の原則に立って実施するものです。

第30期には年間配当金を1株につき70円（第29期に比べ29円の増額）と増配し、第31期には目安としている配当性向を35%から40%に引き上げ、さらに業績の向上が見込まれることから、年間配当金を1株につき90円（第30期に比べ20円の増額）と増配させていただくことを予定しています。当面は40%程度の配当性向を目標として、継続的な利益還元而努力まいります。

また、間接的には、市場動向を鑑みつつ、自己株式を取得、消却することで資本効率の向上を図るとともに、1株当たりの株式価値の向上という形での利益還元も視野に入れています。

Q 最後に株主の皆さまにメッセージをお願いします。

A ローソンは、次の30年に向けて走り始めました。ローソンは、今後もお客さまの支持を受け、持続的に発展していくために、業界のイノベーションリーダーとして、常にチャレンジを続けてまいります。そして、企業価値を高めることで、株主の皆さまに報いてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



ローソン3つのフォーマット

お客さま層にあった機能



価格

LAWSON

展開エリア 全国
 商品数 約2,800アイテム
 営業時間 24時間
 商品特徴 日常生活必需品 新商品の充実
 便利なサービス

NATURAL LAWSON

展開エリア 都市圏
 商品数 約2,400アイテム
 営業時間 18～20時間を基本
 商品特徴 美と健康にこだわった商品
 高付加価値商品
 ライフスタイル提案型商品

LAWSON STORE 100€

展開エリア 都市圏
 商品数 約4,000アイテム
 営業時間 16時間を基本
 商品特徴 生鮮食品の充実 豊富な品揃え
 ※シンプルプライス:100円(税込105円)が中心

● ナチュラルローソンのご紹介

美と健康をコンセプトに、
快適ライフをサポート



健康志向、原材料にこだわった高品質、高付加価値の商品を多く取り揃えるとともに、健康に関するさまざまな情報を積極的に発信し

ています。ナチュラルローソンは、20代～30代の働く女性を中心とした、美や健康、食の安全に敏感なお客さまの快適なライフスタイルをサポートしています。また、一部の店舗では、店内の厨房で厳しい品質基準のもとに焼き上げた本格的手作り「焼きたてパン」や、その場で豆を挽くオーガニックコーヒーなどをご用意しています。安心・安全、しかも、できたてのおいしさをバリアフリー設計の店内で、ゆっくりとお楽しみいただけます。



環境配慮型の取り組みも
積極的に実施

天然原料を使用した無添加化粧品やトイレタリー商品の販売、お客さまにお渡しする割り箸も国内産杉の端材を使用、さらにサンドイッチの包材には水性インキを使用するなど、環境に配慮した商品開発、店づくりを行っています。ナチュラルローソンでは、これからも積極的に美と健康と環境に配慮したさまざまな取り組みを行ってまいります。



NATURAL LAWSON

●LAWSON STORE 100のご紹介

コンセプトは、
お客さま満足「100%」

わかりやすいシンプルプライス(通常商品は税込価格105円)で、生鮮食品をはじめとしたお値打ち感のある商品を約4,000アイテム取り揃えました。ミニスーパーとコンビニエンスストアの長所を融合させた、ハイブリッド型店舗として機能しています。また、新たに「価格と品質で本当の価値を」をコンセプトに開発したプライベートブランド(自社開発商品)「バリューライン」シリーズを投入。青果の当日仕入・当日販売を始めるなど、ローソングループだからこそできる品質管理基準でメーカーとの共同開発を続け、価値ある商品をお届けしております。



プライベートブランド「バリューライン」



生活に密着したお買い物シーンを演出

これまでコンビニエンスストアをあまり利用されなかった主婦や50代以上のお客さまなど幅広い層を対象とし、さまざまな



タイプのお客さまの生活に密着した営業展開を行います。営業時間は、早朝深夜のニーズに着目し、7時から23時までの16時間営業を基本として、立地によって変動させています。また、従来コンビニエンスストアには適していなかった立地にも積極的な出店を図り、お客さまに気軽に買い物を楽しんでいただけます。日常のお買い物シーンについて、コンビニエンスストアの利便性と、商品の魅力的な価格と品質で、お客さまにご満足いただくのがLAWSON STORE 100なのです。

LAWSON STORE 100

民間企業初となる「みどりの文化賞」を受賞

2005年4月、ローソンは、1992年から継続して実施しているローソン「緑の募金」及びその緑化活動が認められ、民間企業としては初めて、農林水産省所管の社団法人国土緑化推進機構より「みどりの文化賞」を受賞しました。

これは、加盟店のオーナーさんや本部社員がボランティアの皆さんとともに全国各地で継続して取り組んでいる緑化活動が、森林保全とCO₂削減による地球温暖化防止に貢献していると評価されたものです。これからも、ローソン「緑の募金」活動への、皆さまの温かいご協力をお願い申し上げます。



「ハウルの動く城 ローソン限定 スペシャルDVDセット」を販売



ローソンでは、マルチメディア情報端末「Loppi」にてスタジオジブリ社の映画チケット販売や、「三鷹の森ジブリ美術館」の入場券などをほぼ独占的に取り扱い、高い実績を上げています。9月からは、昨年公開されて大ヒットした「ハウルの動く城」の「ローソン限定 スペシャルDVDセット」を販売。他では真似のできないオリジナル商品として、お客さまから高い期待が寄せられています。



三鷹の森ジブリ美術館

三ツ星シェフセレクト。ローソン限定ボジョレーヌーヴォー、日本初上陸



三ツ星シェフ ギィ・サヴォワ氏



フランス国内でも数少ない三ツ星レストランのオーナーシェフ、ギィ・サヴォワ氏の監修による「ボジョレー・ヴィラージュ ニューヴォー」を、全国の酒類取扱店舗で予約・販売します。独創的な新感覚フレンチシェフとして注目を浴びているギィ・サヴォワ氏が自信をもってセレクトし、同氏のレストラン以外ではローソン店頭だけで販売される、ローソンオリジナルワインです。

ますます進化する「ごはん亭」。 これからも“食”に驚きとアイデアを提供します。

「分けやすい」「かけやすい」新型容器登場

2004年11月の販売時からご好評をいただいている「分けても、かけても」シリーズ。新商品では、容器形状を変更し、ユニークなアイデアを採り入れました。また、専門店にも負けない商品が税込500円という「ワンコイン価格」で、お求めやすくなっています。



彩り十宝菜丼(ごま青菜ご飯)
とろとろの中華あんは、オイスターソースと鶏の旨みが凝縮した鶏油(チーユ)で仕上げた逸品です。



濃厚玉子のつゆだく親子丼
鶏のモモ肉を、栄養価が高く水分の少ない「しんたまご」で包み、ふんわりやわらかな親子丼に仕上げました。

「ごはん亭」に、日本の良き食文化が新登場

日本の良き食文化スタイル「一汁三菜」。汁物と主菜、副菜2種の組み合わせは、野菜中心に多品目をバランスよく摂ることができます。一汁三菜は、まさに現代人が求める健康的な食事に他なりません。一度のレンジアップで全て一緒に温められるという手軽な調理方法もうれしい新メニューです。



鶏唐揚げの胡麻風味仕立て
濃厚な胡麻マヨネーズに黒胡麻をトッピングした鶏唐揚げに、さっぱりとした味付けの野菜のグリルと春雨サラダの取り合わせは、味、栄養ともにバランス抜群。わかめスープにはもやしが入っています。



牛肉と根菜炒め
牛肉と相性の良いニンジンやゴボウを炒め、ブラックペッパーを程よく利かせたボリューム感ある仕上がり。さらに、ナムルとおからサラダで食物繊維もしっかり摂ることができます。人気の春雨スープは、“旬”のきのこ入りです。

ローソンならではの充実したおいしさ。 展開も新たに、続々登場。

「新ふっくら手巻おにぎり」、 全国展開開始

特徴的な四角いパッケージは、厚みのあるふっくらとした「ごはん」をグレードの高いパリパリの「海苔」で包むために、包装メーカーと共同開発しました。全国展開も始まり、新潟コシヒカリ「醤油漬生たらこ」、「炭火焼鶏青唐味噌和え」も加わってラインナップも充実しました。



新ふっくら手巻おにぎり



醤油漬生たらこ



炭火焼鶏青唐味噌和え

2005年版 ローソンのおでんは、 「串おでん」

今年のおでんは、つゆを地域の嗜好に合わせて全国6エリアで展開。素材や製法にこだわった具材を串に刺すスタイルは、上海ローソンで大ブレイクした「串おでん」の逆輸入です。具材の種類も増やし、こだわりの商品を新しい食べ方でお客さまに提供します。



新しく仲間入り。 「とっておき宣言」の もっとおいしいメロンパン

ローソンのメロンパンは、外はカリカリ、中はしっとり、いつでも焼き立てのおいしさです。フランス産発酵バターが香り良く、「もっとおいしいメロンパン」として生まれ変わりました。



中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

流動資産

流動資産は、前期末に比べ308億3千4百万円増加(前期末比24.0%増)し、1,594億2千6百万円となりました。これは主に、有価証券と加盟店に対しての債権勘定である加盟店貸勘定が合わせて61億8千5百万円減少したものの、仕入債務である買掛金や収納代行などによる預り金が増加したことにより現金及び預金が350億8百万円増加したことによるものです。

固定資産

固定資産は、前期末に比べ75億3千4百万円増加(同3.3%増)し、2,352億5千万円となりました。これは主に、土地の売却に伴い再評価に係る繰延税金資産が10億8千1百万円減少したものの、新規出店に伴い有形固定資産の建物及び構築物が38億円増加したことによるものです。

科 目	当中間期	前中間期	前期
	(2005年8月31日現在)	(2004年8月31日現在)	(2005年2月28日現在)
●資産の部			
●流動資産	159,426	146,904	128,592
現金及び預金	106,593	80,376	71,585
加盟店貸勘定	7,777	7,324	10,332
有価証券	9,391	26,038	13,021
たな卸資産	1,442	1,419	1,376
未収入金	20,049	17,375	18,725
繰延税金資産	3,371	2,777	3,240
その他	10,878	11,678	10,393
貸倒引当金	△78	△87	△81
●固定資産	235,250	221,944	227,716
有形固定資産	94,925	87,039	92,165
建物及び構築物	71,511	62,060	67,711
工具器具備品	18,424	19,705	18,810
土地	4,989	5,273	5,643
無形固定資産	15,561	13,866	14,010
投資その他の資産	124,763	121,037	121,541
投資有価証券	2,690	1,332	1,464
差入保証金	89,747	90,090	89,964
繰延税金資産	8,671	6,502	8,291
再評価に係る繰延税金資産	3,747	4,828	4,828
その他	24,475	20,118	21,129
貸倒引当金	△4,568	△1,834	△4,137
資産合計	394,676	368,848	356,309
有形固定資産の減価償却累計額	91,104	81,795	86,867

連結子会社



(株)ローソンチケット

ローソン店舗内のマルチメディア情報端末「Loppi」を通じてコンサート、スポーツ及び映画などのチケット販売を行っております。



(株)ローソン・エイティエム・ネットワークス

ローソン店舗における共同ATMの設置、管理及び運用に関する業務や、入出金・振込等、共同ATM網を利用した提携金融機関の金融サービスに係る事務受託などを行っております。



(株)アイ・コンビニエンス

iモードの公式サイト「iLAWSON」を展開し、物販・サービス情報の提供などを行っております。



(株)ベストプラクティス

コンビニエンスストアに関する調査全般を行い、ローソン店舗の改善に関わる助言及び提案を行っております。

科 目	当中間期	前中間期	前期
	(2005年8月31日現在)	(2004年8月31日現在)	(2005年2月28日現在)
●負債の部			
流動負債	165,785	155,749	137,931
買掛金	79,178	76,959	62,554
加盟店借勘定	5,066	5,475	3,982
未払金	13,543	12,580	13,021
未払法人税等	10,064	9,373	11,717
預り金	50,759	44,870	40,269
賞与引当金	2,997	2,955	2,788
その他	4,176	3,532	3,596
固定負債	54,770	54,627	54,606
退職給付引当金	2,290	1,348	1,807
役員退職慰労引当金	229	239	304
預り保証金	51,916	52,821	52,334
その他	334	219	159
負債合計	220,555	210,377	192,537
●少数株主持分			
少数株主持分	3,845	2,860	3,490
●資本の部			
資本金	58,506	58,506	58,506
資本剰余金	41,523	41,523	41,523
利益剰余金	84,450	71,165	76,721
土地再評価差額金	△5,461	△7,037	△7,037
その他有価証券評価差額金	772	64	110
為替換算調整勘定	59	42	33
自己株式	△9,575	△8,652	△9,574
資本合計	170,275	155,610	160,282
負債、少数株主持分及び資本合計	394,676	368,848	356,309

流動負債

流動負債は、前期末に比べ278億5千4百万円増加(前期末比20.2%増)し、1,657億8千5百万円となりました。これは主に、チェーン全店売上高の増加に伴い買掛金と収納代行などの預り金に合わせて271億1千4百万円増加したことによるものです。

固定負債

固定負債は、前期末に比べ1億6千4百万円増加(同0.3%増)し、547億7千万円となりました。これは主に、保証金預託タイプの加盟店が減少したことにより預り保証金が4億1千8百万円減少したものの、退職給付引当金が4億8千3百万円増加したことによるものです。

資本の部

株主資本は、前期末に比べ99億9千3百万円増加(同6.2%増)し、1,702億7千5百万円となりました。これは主に、配当金を35億7千6百万円支払ったものの、中間純利益を128億8千1百万円計上したことによるものです。これらの結果、株主資本比率は前期末に比べ1.9%減少し、43.1%となりました。

関連会社



(株)ナチュラルローソン

「美と健康」をキーワードに展開している「ナチュラルローソン」店舗の事業フォーマットの確立、商品企画・開発、店舗運営指導業務を行っております。



(株)バリューローソン

主婦や50代以上のお客さまをターゲットとし、価値ある商品をシンプルプライスで提供する「LAWSON STORE 100」店舗の事業フォーマットの確立、商品企画・開発、店舗運営指導業務を行っております。



(株)ローソン・シーエス・カード

ローソン顧客向けクレジットカードを発行し、マルチメディア情報端末「Loppi」などの各種インフラを通じて、カードサービスを提供しております。

LAWSON 上海華聯羅森有限公司

罗 森

中華人民共和国上海市において、ローソン店舗のチェーン展開を行っております。

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (2005年3月 1日から 2005年8月31日まで)	前中間期 (2004年3月 1日から 2004年8月31日まで)	前期 (2004年3月 1日から 2005年2月28日まで)
(チェーン全店売上高)	(701,168)	(675,445)	(1,329,077)
営業総収入	136,828	128,452	254,395
営業収入	103,262	95,481	189,873
売上高	33,566	32,971	64,522
売上原価	24,247	23,850	46,818
営業総利益	112,580	104,602	207,576
販売費及び一般管理費	87,253	81,374	164,635
営業利益	25,327	23,227	42,941
営業外収益	653	795	1,377
受取利息	192	171	355
その他	461	624	1,021
営業外費用	942	1,507	1,996
店舗解約損	772	952	1,062
その他	170	554	934
経常利益	25,038	22,515	42,322
特別利益	1,039	166	245
固定資産売却益	23	18	18
投資有価証券売却益	988	71	92
その他	27	76	134
特別損失	3,558	2,388	6,528
固定資産除却損	1,599	1,904	3,690
固定資産売却損	372	42	130
減損損失	1,302	—	—
その他	284	440	2,707
税金等調整前中間(当期)純利益	22,519	20,293	36,040
法人税、住民税及び事業税	9,166	8,513	17,313
法人税等調整額	115	337	△1,945
少数株主利益	354	148	237
中間(当期)純利益	12,881	11,294	20,435

営業総収入

営業総収入は、前中間期に比べ83億7千6百万円増加(前中間期比6.5%増)し、1,368億2千8百万円となりました。
これは主に、加盟店の増加によるロイヤリティ収入や連結子会社の㈱ローソン・エイティエム・ネットワークスのATM利用手数料収入が増加したことによるものです。

営業利益

営業利益は、前中間期に比べ21億円増加(同9.0%増)し、253億2千7百万円となりました。
これは主に、ATMの運用費や店舗賃借料などの販売費及び一般管理費が58億7千9百万円増加したものの、営業総利益が79億7千8百万円増加したことによるものです。

経常利益

経常利益は、前中間期に比べ25億2千3百万円増加(同11.2%増)し、250億3千8百万円となりました。
これは主に、持分法適用関連会社の㈱ローソン・シーエス・カードが黒字化したことにより持分法投資損益が4億9百万円改善したことによるものです。

中間連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (2005年3月 1日から 2005年8月31日まで)	前中間期 (2004年3月 1日から 2004年8月31日まで)	前期 (2004年3月 1日から 2005年2月28日まで)
●資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高	41,523	41,521	41,521
資本剰余金増加高	—	1	1
自己株式処分差益	—	1	1
資本剰余金中間期末(期末)残高	41,523	41,523	41,523
●利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高	76,721	72,769	72,769
利益剰余金増加高	12,881	11,294	20,435
中間(当期)純利益	12,881	11,294	20,435
利益剰余金減少高	5,151	12,899	16,485
配当金	3,576	2,190	5,775
土地再評価差額金取崩額	1,575	5	5
自己株式消却額	—	10,703	10,703
利益剰余金中間期末(期末)残高	84,450	71,165	76,721

中間純利益

中間純利益は、前中間期に比べ15億8千7百万円増加(同14.1%増)し、128億8千1百万円となりました。
これは主に、特別利益に投資有価証券売却益を9億8千8百万円、特別損失に減損損失を13億2百万円計上したことによるものです。

中間連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科 目	当中間期 (2005年3月1日から 2005年8月31日まで)	前中間期 (2004年3月1日から 2004年8月31日まで)	前期 (2004年3月1日から 2005年2月28日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前中間(当期)純利益	22,519	20,293	36,040
固定資産減価償却費	9,859	9,193	19,633
固定資産除却損	1,059	1,454	2,761
減損損失	1,302	—	—
退職給付引当金の増加額	483	204	663
貸倒引当金の増加額	427	45	2,342
受取利息	△192	△171	△355
支払利息	4	7	13
投資有価証券売却益	△988	△71	△92
その他の収益・費用(純額)	1,399	1,333	2,049
売上債権の減少額	2,554	11,131	8,123
たな卸資産の減少額(△:増加額)	△66	△43	0
未収入金の減少額(△:増加額)	△929	599	△745
仕入債務の増加額	17,707	17,995	2,097
未払金・預り金の増加額(△:増加額)	10,959	△4,234	△8,395
その他の資産及び負債の増減額(純額)	△490	△1,187	△1,537
(小計)	65,610	56,548	62,597
利息及び配当金の受取額	186	171	349
利息の支払額	△4	△7	△13
法人税等の支払額	△10,820	△9,149	△15,605
営業活動によるキャッシュ・フロー	54,972	47,563	47,328
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有価証券の取得による支出	△20,426	△20,288	△34,319
有価証券の償還による収入	19,050	10,494	35,545
有形固定資産の取得による支出	△13,706	△12,522	△26,710
無形固定資産の増加額	△4,426	△1,292	△2,691
投資有価証券の売却による収入	1,704	—	216
差入保証金の増加額(純額)	217	368	623
その他(純額)	△3,800	△3,329	△5,961
投資活動によるキャッシュ・フロー	△21,385	△26,569	△33,297
財務活動によるキャッシュ・フロー			
自己株式取得による支出	0	△7,820	△8,798
配当金の支払額	△3,576	△2,190	△5,775
その他	—	—	737
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,577	△10,010	△13,836
現金及び現金同等物の増加額	30,009	10,984	195
現金及び現金同等物の期首残高	76,584	76,389	76,389
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	106,593	87,373	76,584

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、前中間期に比べ74億9百万円増加し、549億7千2百万円の収入となりました。

これは主に、売上債権の減少額が85億7千7百万円減少したものの、未払金・預り金が151億9千3百万円増加したことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、前中間期に比べ51億8千4百万円支出が減少し、213億8千5百万円の支出となりました。

これは主に、無形固定資産の取得により31億3千4百万円支出が増加したものの、有価証券の償還により85億5千6百万円収入が増加したことによるものです。

その結果、営業活動によるキャッシュ・フローから投資活動によるキャッシュ・フローを引いたフリーキャッシュ・フローは、前中間期に比べ125億9千3百万円増加の335億8千7百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、前中間期に比べ64億3千3百万円支出が減少し、35億7千7百万円の支出となりました。これは主に、自己株式の取得による支出が78億2千万円減少したことによるものです。

これらの結果、当中間期末の現金及び現金同等物は、前期末に比べ300億9百万円増加し、1,065億9千3百万円となりました。

中間財務諸表

(単位:百万円)

●中間貸借対照表

科 目	当中間期	前期
	(2005年8月31日現在)	(2005年2月28日現在)
●資産の部		
流動資産	143,288	115,875
固定資産	241,104	234,304
有形固定資産	94,744	92,022
無形固定資産	14,937	13,270
投資その他の資産	131,422	129,011
資産合計	384,392	350,180
●負債の部		
流動負債	155,892	131,810
固定負債	54,474	54,377
負債合計	210,366	186,188
●資本の部		
資本金	58,506	58,506
資本剰余金	41,523	41,523
利益剰余金	88,261	80,463
土地再評価差額金	△5,461	△7,037
その他有価証券評価差額金	772	110
自己株式	△9,575	△9,574
資本合計	174,026	163,991
負債・資本合計	384,392	350,180
有形固定資産の減価償却累計額	90,911	86,698

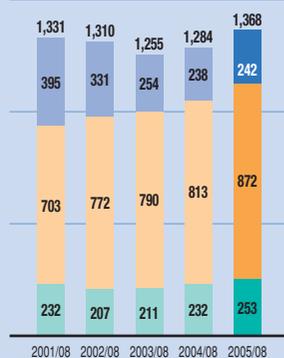
●中間損益計算書

科 目	当中間期	前中間期
	(2005年3月1日から 2005年8月31日まで)	(2004年3月1日から 2004年8月31日まで)
(チェーン全店売上高)	(701,000)	(675,445)
営業総収入	127,429	121,118
営業収入	95,232	88,386
売上高	32,196	32,731
売上原価	23,189	23,635
営業総利益	104,240	97,483
販売費及び一般管理費	79,406	74,838
営業利益	24,833	22,644
営業外収益	648	775
営業外費用	917	1,097
経常利益	24,564	22,322
特別利益	1,039	111
特別損失	3,466	2,378
税引前中間純利益	22,137	20,055
法人税、住民税及び事業税	8,987	8,270
法人税等調整額	200	346
中間純利益	12,949	11,438
前期繰越利益	26,160	23,445
土地再評価差額金取崩額	1,575	5
利益による自己株式消却額	—	10,703
中間未処分利益	37,534	24,174

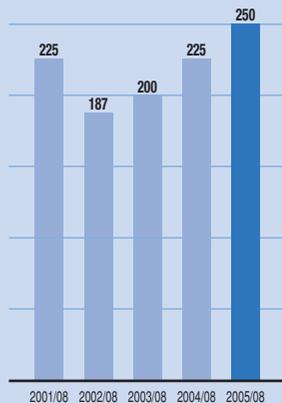
主要連結経営指標

営業総収入 (単位: 億円)

■売上原価/■販管費/■営業利益



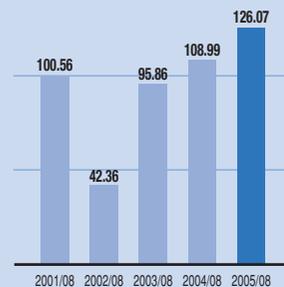
■経常利益 (単位: 億円)



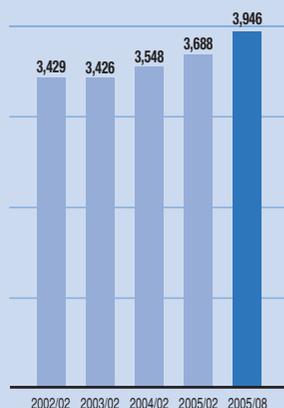
■中間純利益 (単位: 億円)



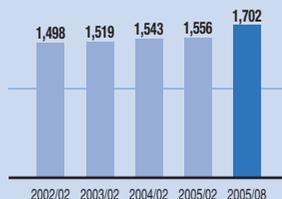
■1株当たり中間純利益 (単位: 円)



■総資産 (単位: 億円)



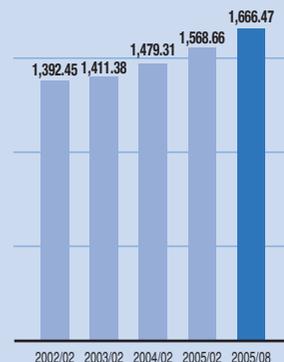
■株主資本 (単位: 億円)



●株主資本比率 (単位: %)



●1株当たり株主資本 (単位: 円)



店舗情報

(2005年8月31日現在)

店舗数

国内合計 **8,210** 店舗

ATM導入店舗数…**3,602**店舗

北海道ローソン支社

504店舗

ATM導入店 100

近畿ローソン支社

1,788店舗

	店舗数	ATM導入店
賀	116	—
京都	176	19
大阪	826	776
兵庫	468	400
奈良	95	44
和歌山	107	32
計	1,788	1,271

東北ローソン支社

744店舗

	店舗数	ATM導入店
青森	135	82
岩手	169	—
宮城	157	—
秋田	130	—
山形	54	—
福島	99	—
計	744	82

九州ローソン支社

953店舗

	店舗数	ATM導入店
福岡	303	69
佐賀	57	—
長崎	81	41
熊本	88	—
大分	108	—
宮崎	81	—
鹿児島	110	—
沖縄	125	10
計	953	120

関東ローソン支社

2,269店舗

	店舗数	ATM導入店
茨城	107	—
栃木	103	—
群馬	67	—
埼玉	322	112
千葉	286	243
東京	801	812
神奈川	478	481
新潟	105	34
計	2,269	1,682

中部ローソン支社

1,090店舗

	店舗数	ATM導入店
富山	99	10
山梨	70	10
福井	75	16
山梨	63	—
長野	137	86
岐阜	87	—
静岡	149	—
愛知	337	123
三重	73	—
計	1,090	245

中四国ローソン支社

862店舗

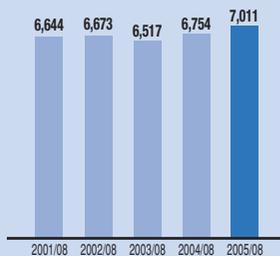
	店舗数	ATM導入店
鳥取	67	33
島根	62	24
岡山	113	10
広島	116	22
山口	109	2
徳島	101	—
香川	95	11
愛媛	146	—
高知	53	—
計	862	102



中国
上海 247

(2005年8月末現在)

連結チェーン全店売上高 (単位: 億円)



■直営店舗数

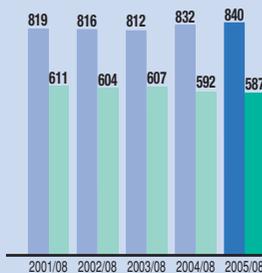
■フランチャイズ店舗数 (単位: 店)

●フランチャイズ比率 (単位: %)



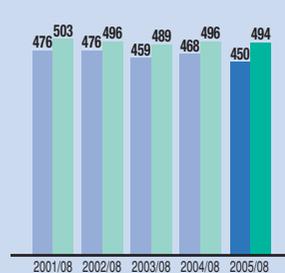
■平均客数 (単位: 人)

■平均客単価 (単位: 円)



平均日販 (単位: 千円)

■新店平均日販 / ■全店平均日販



(注) 平均客数は、2002年8月期までを全店、2003年8月期以降を既存店ベースにて算出しております。

会社概況・株式情報

(2005年8月31日現在)

会社概要

商号 株式会社ローソン
 所在地 東京本社
 〒141-8643 東京都品川区大崎一丁目11番2号
 ゲートシティ大崎イーストタワー
 TEL. 03-5435-2770
 大阪本社
 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町9番1号
 TEL. 06-6380-4491
 設立 1975年4月15日
 資本金 585億664万4,000円
 社員数 3,095名
 事業内容 コンビニエンスストア「ローソン」の
 フランチャイズチェーン展開

役員 (2005年9月1日現在)

代表取締役社長	新浪 剛	上級執行役員	奥田 一郎
代表取締役副社長	田邊 栄一	上級執行役員	川村 隆利
取締役常務執行役員	山崎 勝彦	上級執行役員	出口 幸之進
取締役(社外)	田坂 広志	執行役員	浅野 学
取締役(社外)	米澤 禮子	執行役員	落合 勇
取締役(社外)	増田 宗昭	執行役員	篠崎 良夫
取締役(社外)	古川 洽次	執行役員	鈴木 清晃
取締役(社外)	成田 恒一	執行役員	野林 定行
取締役(社外)	垣内 威彦	執行役員	岸本 丞介
常勤監査役(社外)	児島 政明	執行役員	今田 勝之
常勤監査役	山川 健次	執行役員	森本 憲治
監査役(社外)	小澤 徹夫	執行役員	伊賀 維津雄
監査役(社外)	桑田 博	執行役員	水野 隆喜
常務執行役員	長谷川 進	執行役員	安平 尚史
常務執行役員	国崎 武敏	執行役員	岡田 正俊
常務執行役員	小川 広通	執行役員	新倉 茂
		執行役員	河原 成昭
		執行役員	渡辺 忠直
		執行役員	下畑 幸政
		執行役員	松原 覚
		執行役員	森山 透

株式の状況

会社が発行する株式の総数 409,300,000株
 発行済株式の総数 104,600,000株
 株主数 42,040名

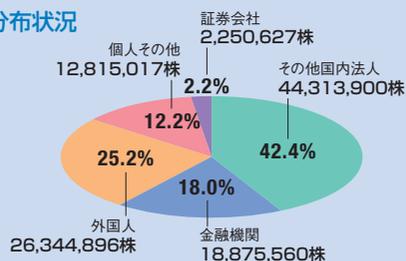
大株主 (上位10名)

株主名	所有株数(株)	議決権比率(%)
1.三菱商事株式会社	32,089,300	31.4
2.日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	6,074,200	5.9
3.丸紅フーズインベストメント株式会社	5,939,500	5.8
4.任天堂株式会社	3,447,000	3.4
5.日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,036,700	3.0
6.ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505103	2,762,682	2.7
7.野村証券株式会社	1,976,600	1.9
8.指定単受託者三井アセット信託銀行株式会社1口	1,497,900	1.5
9.ゴールドマン・サックス・インターナショナル	1,164,800	1.1
10.ドレスナー・クラインオート・ ワッサーズティン証券会社東京支店	1,009,700	1.0

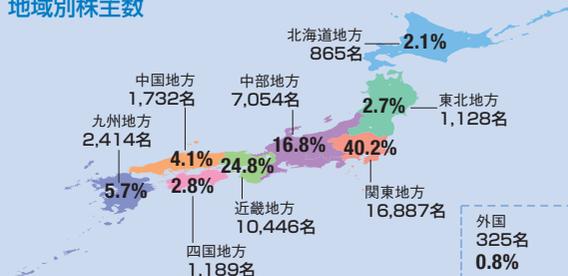
(注) 当社は、2005年8月31日現在、自己株式を2,423,049株所有しておりますが、上記表中からは除外しております。

株式分布状況

所有者別分布状況



地域別株主数

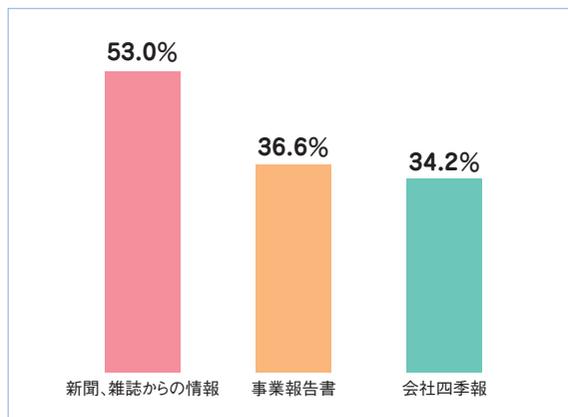


株主さま アンケートレポート

第30期事業報告書(2005年5月下旬発送)に同封させていただきました株主さまアンケートに対し、3,098名という多くの株主さまからご協力を賜り、誠に有難うございました。本アンケートの結果につきましてその主な内容をご報告させていただくとともに、当社の考えるIR活動につきまして、ご説明申し上げます。

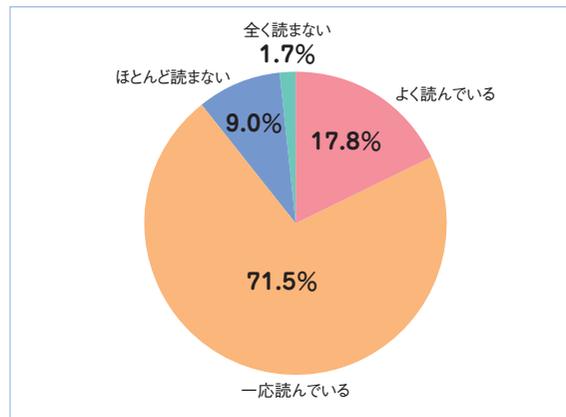
本アンケートの結果を踏まえ、今後のIR活動をより一層充実させてまいります。

1. 普段、ローソンについて、 どのような媒体で情報を得ていますか？ (複数回答)



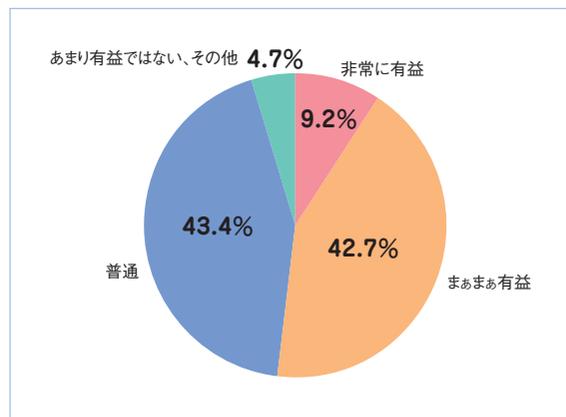
株主さまが当社の情報を取得する手段として最も多いものは、発行頻度の高い新聞、雑誌を除くと、年2回発行している事業報告書であることがわかりました。

2. ローソンの事業報告書は お読みいただいていますか？



事業報告書については、約90%もの株主さまにご覧いただいております。株主さまへの情報開示手段としては大変有効であることがわかりました。

3. ローソンの事業報告書に どのような感想をお持ちですか？

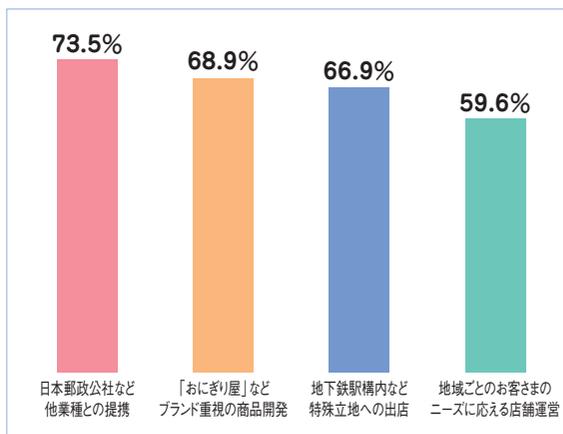


事業報告書を読まれている方のうち、半数以上の株主さまから有益であるとの評価をいただきました。

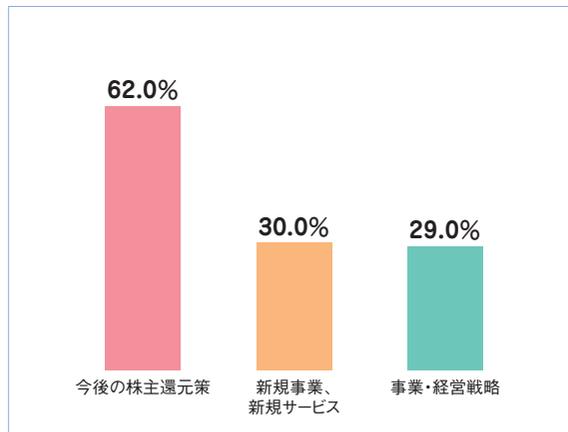
4. 当社の取り組みに対する評価 (複数回答:「評価できる」との回答)

当社の取り組みで評価されているものとしては、日本郵政公社など他業種との提携や「おにぎり屋」に見られるオリジナル商品のブランド戦略、特殊立地への出店など、ローソンならではの新しいチャレンジに対して、高い評価をいただいています。

本誌8～9ページでは、ナチュラルローソン、LAWSON STORE 100など新たな取り組みを紹介していますので、是非ご覧ください。また、ローソンは今後も新たなチャレンジに積極的に取り組んでまいりますので、事業報告書を通じて株主の皆さまにご紹介してまいります。

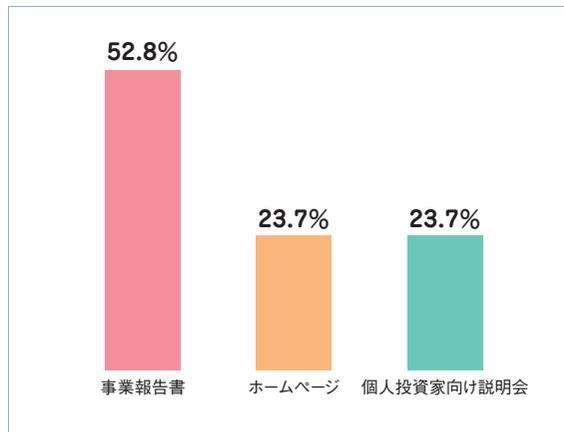


5. 現在のローソンについて、詳しくお知りになりたいことは何ですか？(複数回答)



株主さまがお知りになりたい情報としては、「今後の株主還元策」が最も多い結果となりました。株主さまの疑問にお答えするべく、株主還元策について掲載しましたので、本誌6ページをご覧ください。

6. 今後どのような方法で情報提供を希望しますか？(複数回答)



今後希望される情報開示手段としては、事業報告書を選択される株主さまが最も多い結果となりました。当社におきましては、事業報告書を株主さまと当社を結ぶコミュニケーションツールと位置付け、今後ともほとんどの(新しい)情報を、分かりやすくお伝えしてまいります。また、事業報告書の充実を図るとともに、個人投資家向け企業説明会の実施につきましても、来期実施に向けて検討してまいります。

株 主 メ モ

決算期	毎年2月末日
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	毎年2月末日（その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日）
中間配当確定日	毎年8月31日
1単元の株式数	100株
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
（電話お問い合わせ） 郵便物送付先	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-707-696（フリーダイヤル） 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞
貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページアドレス	http://www.lawson.co.jp/kessan/index.html

各種手続用紙のご請求について

住所変更、名義書換、単元未満株式の買取り及び配当金振込指定などに必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤルで24時間受付しております。

- フリーダイヤル 0120-864-490

なお、証券保管振替機構をご利用の方は、お取引のある証券会社にお申し出ください。

- ホームページからも様々な情報をご覧いただけます。



LAWSON

株式会社 **ローソン**

FCサポートステーション 総務（株式）
〒141-8643 東京都品川区大崎一丁目11番2号
ゲートシティ大崎 イーストタワー
TEL 03-5435-2774
FAX 03-5759-6944
<http://www.lawson.co.jp/>

発行月 2005年11月

© 2005 LAWSON, INC. All rights Reserved.



RECO



本冊子は、環境保全のため、地・球・と・人・に・や・さ・しい間伐紙（国産材10%+市場回収再生紙90%）を使用し、大豆油インキで印刷しています。